

広告用ポスター（函館市中央図書館蔵） プリキ製湯たんぽ、陶器製湯たんぽ（当館所蔵）

第15回企画展
北国の知恵～暖房具の歴史～

2006年2月25日(土)～3月26日(日)

苫小牧市博物館・特別展示室（常設入館料で見学できます）

開館時間：午前9時30分～午後5時/休館日：毎週月曜日・3月21日

長く厳しい冬を乗り切るために、北海道では、さまざまな暖房器具が発達してきました。それらの中には、暖かいだけでなく、形・デザイン共に、すぐれているものも、たくさんありました。

寒い冬のひととき、暖かい展示室に、足を運んでみてはいかがでしょうか？

北国の知恵～暖房具の歴史～ 展示構成

企画展では、明治から昭和にかけての暖房具の変遷を通じて、北海道の人々が培ってきた冬の生活文化を紹介します。さらに地中熱やペレットなど新しい資源を利用したストーブを併せて紹介し、未来のエネルギーを考えるための参考になればと思います。厳しい寒さと大雪、さらに灯油価格の上昇に苦しんだこの冬を振り返る上でも必見の展示です。

暖房具のいろいろ



あんか

いろいろな暖房具があります。どのように使われていたのでしょうか？ 同じ目的でも道具は、時代によって素材や形が変化しています。使い方を想像してみましょう。

ストーブの系譜



コークスストーブ

コークスストーブ、ダルマストーブ……思わず「あっ！ 懐かしい！」と叫びたくなる人もいるでしょう。よく見ると、燃料の燃やし方にも工夫が凝らしてあります。

北海道・苫小牧の冬



写真パネル

北海道の冬支度の様子を、昭和 30 年代の苫小牧の写真パネルで紹介しています。

どのような燃料や暖房具を使っているのでしょうか？ 今の生活様式との違いを見比べて下さい。

これからのエネルギー



サンポット(株)提供

左からペレットストーブ、地中熱ヒートポンプ
最後のコーナーは、石炭や石油を使わない新技術を取り入れた暖房具の紹介です。

今までの話を振り返りながら、これからのエネルギーと暖房具を、考えてみましょう。

展示を見終わると、もうすぐ春が来ます。

開館 20 周年記念特別展

2005 年 7 月 23 日～8 月 21 日

のぞいてみよう恐竜時代～クビナガリュウが見た北海道～



今から、およそ 1 億年前から 6,500 万年前までの時代は、白亜紀と呼ばれています。そのころの地球はとても暖かく、北海道のほとんどは、海の底でした。今回の特別展では、恐竜の化石や中川町から発見された日本最大のクビナガリュウの骨格復元模型をはじめ、200 点にもおよぶさまざまな化石資料を展示し、白亜紀の北海道の自然環境と生き物について紹介しました。

関連行事

化石クリーニング教室

(7 月 30 日、8 月 14 日 午前・午後 計 4 回)

ハンマーとたがねを使い、ノジュール（泥岩）から、アンモナイトなどを取り出しました。化石の入っている場所にたがねを当て、ハンマーで叩いていきます。叩く方向や力の入れ方などを調節するのが大変難しい作業です。でも、慣れてきた人は、次々と化石を取り出していました。



化石^{ラボ}こども研究室 (8 月 5 日)

中川町自然史博物館の疋田主任研究員、夕張石炭の歴史村の高橋学芸員、三笠市博物館の栗原学芸員に、大昔の北海道の環境や、そのころ生きていた動物・植物について研究する方法を、講義していただきました。子供たちは、講義が終わった後も、先生に化石などの研究資料を見せてもらいながら、熱心に質問をしていました。

化石レプリカ教室 (8 月 12、13 日 計 2 回)

粘土や石膏などを使って、アンモナイトのレプリカ（複製品）を作りました。粘土などで型を作り、石膏を流し込み、最後に絵の具で色を塗ると完成です。レプリカを作る時に大切なのは、資料の特徴をしっかりとコピーすることです。悪戦苦闘しながらも、いろいろなアンモナイトが完成しました。なかなかの力作ぞろいでした。



企画展

博物館所蔵優品展（4月23日～6月5日）

当館の収蔵品からよりすぐった、約100点の資料を展示しました。郷土の画家の作品、戦時中の絵はがき、哺乳類の骨格や貝の標本、市内のニナルカ遺跡から出土した琥珀の首飾りなど、貴重な資料がそろいました。

苫小牧市博物館開館20周年記念 ポスター展 （11月3日～11月10日）

当館は、昨年の11月3日に開館20周年を迎えました。この日に合わせて過去の企画展・特別展のポスターなどを1階ロビーに展示しました。

これからも多くの市民が当館に足を運び、満足をしてもらえるような特別展を考えて企画したいと思います。



土曜体験教室

「土曜体験教室」は、ものづくりを通して、歴史・考古・自然などへの理解と興味を深めてもらうための行事です。今年度は「はにわ作り」「勾（まが）玉作り」など、計8回開催しました。

木の実のリース作り（11月26日）

リースは「永遠」「円満」を意味する円形の飾りで、古代ギリシャでは結婚式や春の祭りの時に使われていました。今回は、ヤマブドウ、ツルウメモドキなどの「つる性木本」と、ナナカマドなどの木の実を組み合わせた、山の幸(?) たっぷりのクリスマス用リースを作りました。可愛らしい作品ができました。



絵馬作り（12月24日）

大昔の日本では、馬は「神様の乗り物」と信じられていました。奈良時代ころから、馬の絵を描いた板に願い事を書いて奉納するようになり、江戸時代に流行したと言われていています。今回は、新しい年の干支である「戌」などをモチーフに、絵馬を作りました。自作の絵馬には、どのような願い事が書かれたのでしょうか？



見学会・観察会

芸術探訪（8月4日）

バスで「札幌芸術の森」へ行きました。午前中は「クラフト工房」で、皿の絵付け体験をしました。講師の指導で上薬を塗り、個性豊かな皿を仕上げました。午後からは「野外美術館」を散策し約30点の野外彫刻を鑑賞しました。いろいろな所に隠れている鑑賞ポイントを、ガイドの方に解説していただきました。



覚生川自然探検隊9（9月23日）



「樽前山の噴火の歴史や防災について知ろう」という目的のもと、毎年実施されている行事です。錦多峰川や覚生川の遊砂池を見学しながら、火山のしくみや、樽前山の災害対策についての勉強をしました。その他にも、クラフト作りをしたり、苗木を植えたりしました。樽前山が、より身近なものに感じられたと思います。

化石採集会と博物館見学（10月29日）

由仁町の「ゆめっく館」で、北海道の氷河時代やマンモスゾウについて、また夕張市の「夕張石炭の歴史村石炭博物館・化石のいろいろ展示館」では、石炭のできかたやそのころの夕張の環境などについて勉強しました。化石採集会では、雨天にも負けず、シダやメタセコイアなどの植物化石を見つけることができました。



土曜ミュージアム

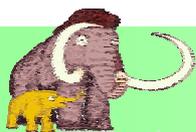
毎週土曜日、親子で気軽に楽しめる行事を実施しています。（3月を除く）

「紙とあそぼう」4～9月は「紙工作教室」、10月～2月は「牛乳パックを使ったはがき作り」を行います（1日2回実施、時間は30～40分位）

「昔のあそびをしよう」昭和30年代の生活を再現した部屋で、メンコ、けん玉など、9種類の昔の遊びを体験することができます。



牛乳パックを使ったはがき作り



友の会 通信

昆虫採集（7月28日）

緑ヶ丘森林公園内、金太郎の池周辺で、昆虫採集を行いました。13名の親子連れが参加し、にぎやかなひとときを過ごしました。「あっ、捕まえた！」という声がするたびに、皆が集まり、講師から、昆虫の名前や見分け方について解説を受けました。イトトンボなど、いろいろな昆虫を見つけることができ、夏休みの、良い思い出になりました。



縄文土器作り（7月～9月 計3回実施しました）

縄文土器は、単純な形をしていますが、実際に作り始めると、すぐに、ひびが入ったり、底が抜けたりするのです、思ったより難しいです。でも、慣れてくると、熊の文様が付いた土器や、さまざまな縄目模様の入った土器など、実際に出土した物をまねることができます。完成した作品は、「ミニ縄文展」で展示されました。



写真の原点（9月24日）

白黒写真の撮影と現像を体験しました。撮影する時の光量や、印画紙を現像液に浸す時間など、微妙な変化で作品の仕上がりが全く変わってしまいます。

デジタルカメラが普及してきている今、フィルムタイプのカメラは次第に使われなくなってきていますが、手間と暇をかけた分、趣のある作品ができ上がり、白黒フィルムの魅力を再認識しました。



参加者の声

「木組みの技～布巾掛け作り～に参加して」 家族会員 三上 勲さん

1月15日に、博物館で開催された布巾掛作りに家族3人で参加しました。特に最近では家族で大工道具を使う機会も少なく、講師の方に、のこぎりや電動ドライバーの使い方を教えていただき、子供も大変面白かったです。図面を見ながら、墨付け、切り込み、接着、組み立てと作品を完成させる喜びを味わいました。わずかな材料でぬくもりのある作品ができたのに感心しました。



皇太子殿下がご視察に来られました

お出迎え

市内で開催された第61回冬季国民体育大会に皇太子殿下が来られました。それに伴い、1月28日に当館のご視察に来られました。

当日、朝から大雪になり、職員一同が大慌てで除雪を行う一幕もありましたが、午後から天気も回復しました。皇太子殿下はアイスホッケーの試合を観戦された後、高橋はるみ知事らとご一緒に当館に到着されました。博物館の周囲に来られた方々に、にこやかに手を振られました。



展示室のご見学

到着された後、殿下は、武田学芸員の解説で2階の常設展示室をご見学されました。

主に、苫小牧の歴史についての説明を受けられましたが、殿下は熱心に質問をされていました。

特に、アイヌの人たちの生活に関する展示や、丸木舟、八王子千人同心などの資料に興味を示さ



れていました。

また、江戸時代から明治中期にかけて活躍した「北前船」に関しては豊富な知識をお持ちで、北前船で使われていた船筆笥の製作者や製作場所について、嬉しそうな様子でお話をされていました。

武田学芸員は「皇太子殿下は、非常に物腰が柔らかい方で、海上交通に関する多くの文献を読まれているようでした」と話していました。

博物館友の会活動のご視察

展示室のご見学後、殿下は、当館で行っている「牛乳パックを使ったはがき作り教室」の様子をご見学されました。長谷川館長の説明をお聞きになりながら、殿下は、作業をしている子供たちに「何枚くらい作ったの?」「うまくできていますか?」などと優しくお声をかけられていました。

その後、殿下は友の会の会員とご一緒に、はがき作りを体験され、牛乳パックから作ったパルプを木枠に流し、表面を叩きながら平らにする作業をされました。友の会の揚妻理事がお手伝いをして差し上げましたが、殿下は「難しいですね」とお話をされながらも、熱心に取り組まれ、はがきが上がるまで見学されました。



殿下がお帰りの際は、職員一同でお見送りをしました。殿下は、職員に「どうもありがとうございます」と声をかけられ、博物館を後にされました。

展示室から

原野の植生

勇払原野に生育する植物の、分布をジオラマで紹介しています。原野には「ハスカップ」の愛称で知られているクロミノウグイスカグラや、エゾノコリンゴなどの低～高木が生い茂り、湿原に近づくと、サギスゲ、ヨシ、エゾリンドウ、沼地では、ヨシやミクリ、ミツガシワの群落などを観察できます。その近くには砂丘があり、低地であるにもかかわらず、ウラジロタデ、ミヤマハナゴケなど、高山性の植物を見ることができます。勇払原野の植物は、6～8月頃、一斉に開花時期を迎え、訪れる人の目を楽しませてくれます。



平成18年度の行事予定

特別展・企画展

第16回企画展「音のある風景」 4月22日～5月28日

遠藤ミマン氏の絵画など、館所蔵の美術品から「音」「楽器」をモチーフにした作品を展示します。

第50回特別展「昭和の暮らし～我が家にテレビが来たころ～」 7月22日～8月27日

昭和30年代の家屋の一部を再現し、当時の生活用品や、苫小牧での出来事などを紹介します。

第17回企画展「静川遺跡国史跡指定20周年記念～環濠遺跡～」 2月10日～3月18日

静川遺跡（環濠遺跡）の発見によって明らかになった、縄文時代の暮らしと精神文化を紹介します。

土曜体験教室

「土面作り」(8月)

「落ち葉のしおり作り」(9月)

「昔の遊び1 リサイクルけんだま」「葉脈のクラフト作り」(10月)

「鹿角のリング作り」「松ぼっくりのクリスマスツリー作り」(11月)

「絵馬作り」(12月)

「干支作り」(1月)

「昔の遊び2 俵ころがし」(2月)

「勾(まが)玉作り」(3月)

観察会・見学会

「芸術探訪」(8月)

「覚生川自然探検隊10」(9月予定)

土曜ミュージアム

「紙とあそぼう」 毎週土曜日 午前10時、午後2時の2回

4～9月「紙の工作教室」 10～翌2月「牛乳パックを使ったはがき作り」

「昔の遊びをしよう」毎週土曜日(3月を除く)

**苫小牧市
博物館だより**

平成18年3月1日発行・第55号

編集・発行：苫小牧市博物館 〒053-0011 苫小牧市末広町3丁目9-7

Tel:(0144)35-2550～2552 Fax:(0144)34-0408

URL: <http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutukan/>